

病児・病後児保育ってどんなところ？

子どもが感染症などの病気にかかり、保育園に行くことができず、お仕事も休めない時に子どもに無理をさせることなく、保護者に代わり保育士や看護師が子どもの状態に合わせた看護を行う場所が病児・病後児保育室です。

● 病児保育

子どもが病氣中で病状が安定している状態。

● 病後児保育

子どもが病氣の回復期（病氣が治ってきている）にある状態

どちらも、病院・診療所、保育所等に併設された専用スペースで保育を行います。

● 訪問型病後児保育（子どもが病氣の回復期（病氣が治ってきている）にある状態）

自宅に訪問して保育を行う訪問型の病後児保育もあります。

地域の病児・病後児保育にていては、実施施設での事前の登録が必要になります。代理のききにくいお仕事で、頼れる人がいない場合などは病児・病後児保育を利用できるように事前に見学・登録をしておくとう安心です。

子どもが病氣になったら・・・

まずは、かかりつけ医を受診しましょう。

無理をさせての登園は、やめましょう。体調の悪い子どもにとって集団生活は負担になります。感染症であった場合、他児へ感染を広げてしまうことにもなります。無理をさせることで、回復の遅れや病状を悪化させるおそれもあります。

**病院受診をした際には、受診結果を園に連絡するようお願い致します。
特に感染する可能性がある疾患は、診断された日に必ず連絡して下さい。**

自宅で静養する期間については、必ず医師の指示した期間に従って下さい。保育園での集団生活に適應できる状態に回復してからの登園であるようご配慮下さい。

とびひとは？

気温の上昇と共に害虫の発生も多くなります。

虫刺されからの掻きこわしでとびひになることがあります。

● とびひの原因と主な症状

湿疹や発疹、虫刺されなどの掻きこわしなどに、黄色ブドウ球菌や連鎖球菌が感染しておこります。水疱（水ぶくれ）ができ、じくじくして痒くなります。水疱が破れ、水疱の中の細菌を含んだ液手指に触れ、他の部位を触ると広がっていきます。

強いかゆみと全身に広がるスピードが速いことが特徴です。特に夏にかかりやすいため、注意が必要です。とびひは、早めの受診と治療が大切です。治療は、抗生物質入りの飲み薬と塗り薬で皮膚と体の内側の両方から治療を行います。とびひの症状が見られたら、早めに小児科または皮膚科を受診しましょう。

● とびひを防ぐためには・・・

子どもの鼻ほじりに注意しましょう。鼻には黄色ブドウ球菌がたくさんあるため、手についた細菌に一層広がります。また爪は短く切りましょう。子どもは皮膚のバリア機能が未熟なため、肌トラブルを起こさないように日頃から肌を清潔にしましょう。